

令和4年度

# 行政懇談会記録書

常磐大学高等学校 第1学年特進選抜コース

水戸探究 最終プレゼンテーション

日時 令和5年2月1日(水) 13:10~14:40

場所 常磐大学高等学校 講堂

水戸市

## 目次

次第	.....	1
発表者等	.....	2
懇談会記録	.....	3
当日資料	.....	25

## 次第

### 1 開会式

### 2 生徒発表

①歴史文化財課グループ 「高校生が行ってみたい水戸城周辺とは」

M i t o C a s t l e F e s t i v a l

②商工課グループ 「高校生が行ってみたい中心市街地とは」

M I T O り 図

③新市民会館整備課グループ 「高校生が利用したい新市民会館とは」

食べ物フェス I N M i t o r i O

④観光課グループ 「高校生が参加してみたい観光イベントとは」

水戸市の垢抜けプロジェクト

⑤環境保全課グループ 「高校生が取り組んでみたい環境保全活動とは」

ポイントを貯めて、使えて、楽しい！

⑥みとの魅力発信課グループ 「高校生の目に留まる情報発信とは」

水戸だっ p a y ～これが目に入らぬか～

### 3 質疑応答

### 4 水戸市長 講評

### 5 閉会式

## 発表者等

### 1 発表者

特進選抜コース1年生

- ①歴史文化財課グループ 1年1組
- ②商工課グループ 1年3組
- ③新市民会館整備課グループ 1年3組
- ④観光課グループ 1年3組
- ⑤環境保全課グループ 1年1組
- ⑥みとの魅力発信課グループ 1年1組

### 2 司会

1年2組

1年4組

### 3 市出席者

水戸市長 高橋 靖

市長公室長 小田木 健治

みとの魅力発信課長 出沼 大 ， イメージアップ係長 宮崎 良太

新市民会館整備課長 須藤 文彦 ， 主事 鈴木 穰一郎

環境保全課長 坪井 正幸 ， 保全係長 近藤 雄希

商工課長 楢崎 芳明 ， 主幹 小石川 美幸

観光課長 小林 一仁 ， 主事 須能 大輔

歴史文化財課長 小川 邦明 ， 課長補佐 関口 慶久

(事務局)

政策企画課 政策審議室 政策審議係長 根本 龍典

みとの魅力発信課 市民相談室 室長 介川 忠明，相談係長 長谷川 修

## 懇談会記録

### ○司会

ただいまより、「水戸探究最終プレゼンテーション」を開会します。  
本日の司会を担当させていただきます\_\_\_\_\_と。

### ○司会

\_\_\_\_\_です。

### ○司会

よろしく申し上げます。  
発表に先立ちまして、御来賓の皆様を、簡単ではありますが、紹介いたします。  
水戸市長 高橋靖様。

### ○高橋市長

皆さん、よろしく申し上げます。

### ○司会

市長公室長 小田木健治様。

### ○小田木市長公室長

どうぞよろしく申し上げます。

### ○司会

また、みとの魅力発信課、新市民会館整備課、環境保全課、商工課、観光課、歴史文化財課、政策企画課から御出席いただいています。

### ○司会

本日の発表の流れを確認します。  
校内選考を通った6グループが7分間発表します。残り2分でチャイムを1回、残り30秒でチャイムを2回鳴らします。  
質疑応答の時間はまとめて行います。  
それでは、早速始めましょう。  
最初の発表グループは歴史文化財課です。ステージへの登壇をお願いします。  
それでは、発表をお願いします。

### ○歴史文化財課グループ

これから私たちの発表を始めます。  
タイトルは「Mito Castle Festival」です。  
水戸市の理想は「私たち高校生などの若者があふれていて、とても活気あふれる水戸城周辺」です。  
ですが、これをかなえるために解決すべき課題が主に3つあります。  
1つ目は、そもそも認知度が低いということです。認知度が低いと、活気あふれる水戸城周辺をかなえることができません。  
2つ目に、若者が来ないことです。私たちのクラスで話を聞いてみても、「水戸城という

名前は聞いたことがあるけど、行ったことはない」という人がほとんどでした。

3つ目に、水戸城の魅力を知る機会があまりないということです。水戸城にはたくさんの魅力があります。ですが、その魅力を知る機会がないのです。魅力を知る機会があれば、たくさんの人に訪れてもらえることができるのではないかと私たちは考えました。

そこで、私たちは水戸城祭の開催を提案いたします。

始めに、水戸城祭というのはどんなイベントなのか説明します。

水戸城祭は、高校の文化祭をイメージしたイベントです。

開催場所は、水戸城から千波湖付近までの広範囲で行おうと考えています。

市内の小中高生や地域の方々と協力して、一緒に行おうと考えています。

また、様々な分野の出し物を年齢問わず誰もが楽しめる、そんなイベントを考えました。

次に、水戸城祭では具体的にどのようなことを行うのか説明します。

まず、歴史資料の展示を行おうと考えています。歴史資料の展示は、平成21年に発見された水戸城門扉や、復興前と復興後の水戸城周辺の写真を展示して、水戸城について、もっと魅力を知ってもらいたいと思い、考えました。

次に、フリー・マーケット出店ということです。出し物として、着なくなった服や使わなくなったものを出店して、たくさんの人を集めようと思い、考えました。

次に、ライブを行ってみようと考えました。ライブでは、カラオケ大会で90点以上取った人には、水戸市内で使える商品券を景品として配付しようと考えました。

僕たちは水戸城のスイーツもつくってみました。水戸城といえば、秋になるとイチョウの木がとてもきれいで、魅力的で、また、茨城県はサツマイモの生産量が全国2位ということで、イチョウの葉をサツマイモの黄色い色で表現したソフトクリームを考えました。

水戸城祭を開催する意味としては、多くの人に水戸城を知ってもらいたい。水戸城に多く集まるのはイベント時だから、幅広い年齢層の人が楽しめるような場所にしたいからです。

毎年、水戸城に多くの人が集まるのは、梅まつりなどといった祭りの日です。そこで、祭りのように楽しめて、かつ、水戸城の魅力・歴史をいろいろな人に共有したいと思ったので、水戸城祭を開催したいと考えました。

また、私たちはInstagramの開設を提案します。世界で10億人、日本で3,000万人以上が利用しているInstagram。私たちのクラスでも、8割以上の人がInstagramを利用しています。そんなInstagramなら、若者への知名度を上げることができるのではないかと私たちは考えました。

また、Instagramを活用して、イベントなどの情報を発信し、若者にも訪れてもらいたいと考えています。

SDGsなフリー・マーケットを催すことで集客を増やすことができますし、SDGsの12の目標「つくる責任 つかう責任」が達成できます。

また、私たちの班で考えたイチョウソフトクリームは、スイーツ好きの人にも水戸城を訪れてもらえるきっかけになるという利点もあります。

カラオケ大会での景品を水戸で使える商品券などにすることによって、地域活性化につながるという利点もあります。

また、Instagram等のSNSを活用することで、知名度向上の方法につながる利点もあります。

次に、私たちが考えた企画が抱える課題についてです。

まず、水戸城祭を開催するに当たっての課題です。

1つ目は、開催するに当たって、多くの費用がかかってしまうということです。水戸市の令和4年度予算の概要に、観光まつりの開催の予算額は6,435万円と掲載されていたので、同じくらいの予算がかかると予想されます。ライブの開催費や景品費などにかかると考えています。カラオケ機器は、カラオケ機器のレンタルを行っている会社の公式サイトによると、3万円台からのレンタルが可能と掲載されていました。また、イチョウソフトの開発・販売に当たっても多くの費用がかかると考えています。

2つ目の課題は、先ほどお話ししたように、開催するに当たって、たくさんの人の協力が必要になってしまうということです。

次に、Instagramの開設に当たっての課題です。

ここでの課題は、Instagramの管理をする人が必要になるということです。現在、水戸城公式のSNSはないと話をしておられたので、管理ができる人を用意しなければなりません。

次に、企画に込める意気込みです。

「年齢問わず水戸城に訪れてほしい!!」「もっと若者に愛される水戸城に!!」

この2つは、以前、担当者の方の話を聞いた際に、高齢層が訪れる割合が多く、若年層が訪れる割合が少ないと話しており、特に10代から20代をターゲットにしたいと話されていたため、そこを狙いとして企画しました。

若年層にはInstagramを通して知ってもらい、訪れて、また来たいと思ってもらえるような水戸城を考えておきます。

次に、「水戸城の魅力を県内だけでなく全国に!!」

水戸城は、ほかのお城に比べて知名度が低く、県内でも知らないという人が多いため、イベントなどを通して来てもらい、県内はじめ全国からも来てもらえるような水戸城を考えています。

これで、歴史文化財課グループの発表を終わりにします。

## ○司会

歴史文化財課グループの皆さん、ありがとうございました。席へお戻りください。

続いて、商工課グループの皆さん、準備をお願いします。

それでは、発表をお願いします。

## ○商工課グループ

これから発表を始めます。

まず、この「MITORI図」というタイトルが気になって仕方ないと思います。私たちが今いる、この水戸というまちと、分かりやすい図という意味の見取り図を掛け合わせたものです。

このタイトルのとおり、私たちは、水戸というまちを分かりやすい形で発信していく、そのアイデアを考えました。

私たち商工課グループの目標は、中心市街地の人口増加、歩行者通行量の増加など、中心市街地の活性化です。

それでは、どのように中心市街地を活性化すれば良いのでしょうか。

人口・歩行者通行量の増加のためには、市外、日本全国からたくさんの人に来てもらう。たくさんの人に来てもらうためには宣伝する必要がある。

では、どのように宣伝すれば良いのでしょうか。水戸が日本に誇れるものはないのでしょうか。

では、水戸ホーリーホックを利用しよう。水戸ホーリーホックが活動するスタジアムを使い、人を集めよう。このような考えに至りました。

さて、私たちが考えたアイディアの内容は、スタジアムの周りに買い物ができる場所や勉強ができる場所、様々な目的と幅広い年齢の方々が利用できる建物をつくろうということです。

「どういうこと？」と思った方もいらっしゃると思いますので、まずは、この図を御覧ください。

まず、真ん中の緑色のゾーンは、サッカーなどをやる競技場になっています。その外側の青いゾーンは、ショッピングをする商業スペースになります。

スタジアムの中には、飲食店やアパレルショップ、映画館だけでなく、病院や幼稚園などの公共施設もある、地域に寄り添ったスタジアムになっています。

そのようなスタジアムをつくったとして、どのようにアピールすれば良いか。私たちが誇る水戸ホーリーホックとスタジアムを利用しようと考えました。

水戸ホーリーホックはJリーグに属しています。Jリーグに属するクラブは、現在、J1、J2、J3合わせて60チームが所属しています。北は北海道、南は沖縄にもクラブがあり、そのため、リーグ戦などで、たくさんの地域のクラブと対戦することが考えられます。

その際、ホームの水戸で試合をするときに、相手のチームと一緒に、相手チームのサポーターやファンが応援しに来ます。

応援しに来たサポーターやファンの方々に、このスタジアムで、サッカー観戦プラスアルファで買い物を楽しんでもらい、中心市街地の活性化につなげようと考えました。試合がない日は市民が利用し、試合がある日は観光地になる、水戸の象徴となるようなスタジアムをつくれたらいいなと思っています。

さらには、スタジアムと商業施設の珍しい複合施設ということで、宣伝効果にもつながると考えています。

また、中心市街地にスタジアムをつくる利点としては、時間短縮などの効果があります。現在、水戸駅からケーズデンキスタジアムまでは徒歩で1時間半、バスで39分、赤塚駅からでもバスで15分ほどかかります。これでは、県外から来たサポーターにとっては労力や金銭面で大変なものになります。

ほかのスタジアムを見てみると、カシマスタジアムは最寄り駅から徒歩2分、東京味の素スタジアムは駅から徒歩5分、日産スタジアムは徒歩7分など、駅近のスタジアムがあります。労力や金銭面で気軽にスタジアムに来てもらうためには、交通アクセスの良さが



必要不可欠なものと言えます。

担当課の目標及び課題は、中心市街地の人口・歩行者通行量が増えることです。市役所の方々からこの2つの言葉をたくさん聞いて、このことを解決しなければならないと私たちは強く感じました。

現在、多くの地方都市では、急激な人口減少と高齢化に直面しています。水戸市も移住人口が減少していて、さらには歩行者通行量が大幅に減少しています。

このグラフを見てください。このままだと、18年後の2040年には約2万4,000人もの人口が減少することになり、そのうち生産年齢人口は約3万7,000人減少すると言われていています。そして将来の人口の減少は確実なものとなってしまっています。

次に、アイデアがもたらすメリットとして、水戸が有名になるということです。これを達成することができると、先ほど述べた中心市街地の人口・歩行者量の増加の目標を達成できると考えました。

このアイデアを中心市街地の人口増加という面で考えてみると、高齢者や車を持たない方たちなどに最適であると言えます。

この図を見てください。これは水戸市の町別の高齢化率を示した図です。高齢者が比較的、水戸市の中心市街地に住んでいるため、生活できるものが全てそろっている商業施設に歩いて行くことが可能であり、運動ができて健康に過ごすことができます。また、スタジアム内でちょっとした高齢者向けの運動イベントを開催して、市民たちが交流できる場所にもなります。

車を持たない社会人も同様に、徒歩で買い物を商業施設内ですることができ、整った生活環境で生活を送ることができます。これこそが水戸市の最終的な目標としているコンパクトシティの実現につながっているのではないかと考えました。

また、スタジアムまでに行く道を歩いて行くため、歩行者通行量の増加も期待できます。

この発表をするに当たって、私たちは「剛毅果斷」という言葉を目標にしてきました。意志を強く持ち、物事にくじけずに今まで頑張ってきたので、ぜひこのアイデアを何かに生かしていただければ幸いです。

これで商工課担当の発表を終わりにします。

ありがとうございました。

## ○司会

商工課グループの皆さん、ありがとうございました。席へお戻りください。

続いて、新市民会館整備課グループの皆さん、準備をお願いします。

それでは、発表をお願いします。

## ○新市民会館整備課グループ

それでは、新市民会館整備課グループの発表を始めます。

これから、水戸新市民会館を中心に、水戸全体をもっと生き生きとした町にするための私たちのアイデアを提案します。

まず始めに、皆さんは水戸新市民会館がどこにあるかを知っていますか。知っている人も多いと思いますが、水戸駅からこの常磐大学高等学校に向かう際の道の途中にあります。泉町一丁目の京成百貨店の向かいにできた建物で、この建物が新しくできた新市民会

館です。

私たちは、この新市民会館を中心として、水戸のまちを新たに活性化するためのアイデアを皆さんに提案したいと思います。

新市民会館整備課の理想は『人が集まり、にぎわい、市民の活動をはぐくみ、ひと、まち、文化がつながる市民参加の運営を目指して』です。

人々の交流によって水戸の魅力を発信でき、まちなかの交流拠点として、近辺施設と連携しながら、新たなにぎわい、交流を生み出し、活力あるまちづくりをリードする施設として、水戸市民はもちろんのこと、水戸市を訪れた方々も楽しめるというのが目標です。

この「Mitori0」という言葉って何だろうと疑問に思った方もいるのではないのでしょうか。「Mitori0」というのは、水戸新市民会館、京成百貨店、水戸芸術館の3施設をtrio三重奏とあわせ、Mitoと組み合わせたエリアの愛称のことです。私たちは、この名前から、三重奏という名のとおり、この3つの施設のきれいな混ざり合いを実現することが、先ほどの理想につながるのではないかと考えました。

この目標の実現に向けて、私たちは、それぞれの地域に分布する年齢層の偏りを減らすことが課題ではないかと考えました。

「年齢層の偏りとは？」と思った方も、今からの説明を聞けば、うなずける部分があるのではないのでしょうか。

例えば、水戸駅周辺は、高校生から高齢者、観光客など幅広い人が利用しています。しかし、南町あたりはビルが多いため、働く世代が多く、水戸新市民会館や京成百貨店のあたりはお店が多いため、仕事を辞めた高齢者世代、大工町周辺は飲食店が多いので、学生や大人が多いですが、ファミリーはあまり見かけません。常磐大学高校があるこの辺は学校が多いため、学生が多いという印象を持ちました。

このような現状の中で、年齢層の偏りを減らし、私たち高校生をはじめ、小さいお子様からお年寄りまで、全ての市民の皆様でにぎわう新市民会館にするため、私たちが出したアイデアは、「食べ物フェス」を開催するというものです。

このアイデアの提案理由は、食というのは、全ての世代に深く関係があり、多くの人々が楽しめ、足を運びたいと思う大きなきっかけになるのではないかと考えたからです。

例えば、水戸名物の納豆を使った料理、あんこう鍋や常陸牛など、東西南北から茨城県の名産品を集め、「茨城フードフェス」というものや、茨城県の有名なスタミナラーメンを中心に、都道府県の有名なラーメンを集めた「ラーメンフェス」、ほかに、「肉フェス」や「スイーツフェス」など、アイデア次第で、様々なフェスを開催できるのではないかと考えました。

しかし、それでは水戸らしさがあまりないのではないかと、そう思う人もいます。そこで、「思い出ごはんフェス」というものを私たちは提案します。

学生時代を水戸で過ごし、今は水戸で働き、家族と暮らしている。高校を卒業し、コロナウイルスの影響で、当時、水戸で過ごした仲間となかなか会えない。水戸で食べたあの味をもう一度食べたい。中学生のときに食べた給食がまた食べたいなど、大人の皆さんはもちろんのこと、学生さんが小さい頃に食べた思い出の味などを高校生が復活させるというものです。

皆さんそれぞれに思い出の味というものがあるのではないのでしょうか。その思い出をみんなでも共有できたらもっと良いのでは、そして、これから社会を担っていく私たち高校生が人生の先輩方の思い出を聞き、もっと有意義な生活につなげることができるのではと考えたのがきっかけです。

ホームページ上や周辺施設、地元の小中学校でアンケートを募集します。そのアンケートをもとに、私たち高校生がお店を探し、お願いをしに行きます。その後、高校生が大人の方々をもてなすという形でフェスを開催させるというものです。大人の皆さんの力を借りなくては実現しない提案ではありますが、水戸というまちならではの地域と人々との関わりによって、より新しく、まちが輝いていくのではと考えています。

このアイディアのメリットとデメリットです。

メリットは、様々な年齢層の人を呼び込めること、地元の飲食店や商業施設と連帯することで、そのお店の地域も賑わうことにつながることで、インスタ映えや学割を利用した学生を中心として呼び込みが行いやすいこと、そして、何よりも、新市民会館整備課の方々の力をお借りしながら、高校生中心に行うことが可能になるという点です。

デメリットは、食べ物に関するイベントのため、マスクを外す必要があり、新型コロナウイルス対策をとらなければならないこと、飲食店や商業施設など出店してもらうお店の協力がなければならないという点です。

このデメリットに関する対策としては、手洗い、検温はもちろんのこと、室内ではなく、できる限りの屋外での開催、食事以外ではマスクの着用を呼びかけるなどです。

また、協力してもらうお店の選び方については、私たち高校生がお店を選び、協力をお願いすることで、学生が求めているものが集まることが多くなるため、高校生がたくさん利用するのではないかと思います。

最後に、この企画案は、今までの数か月、新市民会館整備課のメンバーで話し合ってきたものです。たくさんの時間と労力をかけてつくり上げたので、この企画案を必ず良いものにして成功させたいです。

御清聴ありがとうございました。

## ○司会

新市民会館整備課グループの皆さん、ありがとうございました。席へお戻りください。

続いて、観光課グループの皆さん、準備をお願いします。

それでは、発表をお願いします。

## ○観光課グループ

私たちは「水戸市の垢抜けプロジェクト」について説明します。

このプロジェクトは、水戸市の現状を知り、今の水戸市のSNSについてまとめた結果、名付けられたものです。

発表の流れとしては、私たちが水戸市のSNSについて詳しく話してから、水戸市の目標や課題に対するこのプロジェクトのメリット・デメリットについて説明したいと思います。そして最後には、私たちのこのプロジェクトに対する思いを話すので、最後までお聞きください。

では、このプロジェクトの中身について説明したいと思います。

簡単に言うと、上にもあるとおり、「水戸市のSNS活動を活発にする」です。SNS活動と言ってもいろいろありますが、私たちは、スライドにあるこの3つを実践していきたいと思っています。

1つ目は、SNSならではのイベントをする。

皆さんもSNS上でのイベントなら幾つか見かけたこともあるでしょう。ToyWarsなどの仮想空間、TwitterやYouTubeなどのSNS上でできる参加イベントなどです。

2つ目は、現在使われているSNSでの活動の見直し。

ホームページやYouTubeも含めて、水戸市のSNSは寂しい雰囲気があるので、もっと親しみの持ちやすいものにしていきたいと思っています。

そして3つ目、「みとちゃん」が様々な企画に挑戦。

「みとちゃん」がいろいろな活動をしているのは皆さん聞いたことがあるかもしれませんが、そもそも近くに「みとちゃん」が来ていることを知らない人は多いと思います。そこで、「みとちゃん」の知名度をアップさせて、「みとちゃん」の活動を多くの人に知ってもらいたいです。

では、先ほどの内容についての具体例を話したいと思います。

① SNSならではのイベントの具体例です。

いろいろと種類がありますが、私たちはコラボイベントやLIVE配信などを考えました。人気のコンテンツのコラボイベントであれば、多くの人々の目に留まりやすくなりますし、イベントのもととなっている場所へ足を運ぶ人は多いと思ったからです。

水戸市に関係することでは、時代劇などで水戸城に来る観光客は多かったそうです。

右上の画像も、ほかの市町村が実際にコラボしたもので、人気ゲームなどとのコラボなら人も多く集まると思います。

LIVE配信というものは、遠くの人でも、来なくてもイベントや町並みを体験できるものです。配信に映ろうとする人もいないかもしれないので、実際に来る人も増えるかもしれません。

ほかにも、SNSによってはスーパーチャットがあります。簡単に言うと、遠くからでもお金を通じて支援できるものです。これを使えば、遠くの人でも水戸市のイベントに支援できるので、水戸市の活性化にも少しは貢献できるかもしれません。

次は②、現在使われているSNSでの活動の見直しの具体例です。

先ほども言いましたが、今の水戸市のSNSは寂しいものです。今の若者が見ていて、楽しい、行ってみたいと感じる投稿をしたほうが良いと思いました。

今はTwitterとYouTubeをやっていますが、InstagramやTikTokなどのほかのSNSにも手を出したほうが良いと思います。

最後に③、「みとちゃん」が様々な企画に挑戦するというものの具体例です。

これは2つ目での活動に関係していて、SNSで「みとちゃん」がギネス記録に挑戦したり、流行りの曲を踊ったり、ほかと一緒にあったトークコラボをしているところなどを投稿すれば、「みとちゃん」の知名度がアップしますし、「みとちゃん」に人気が出れば、水戸市について知る人も増えると思います。

それでは、なぜこのプロジェクトを提案したいのか、その理由となっている水戸市の目

標と課題について説明したいと思います。

水戸市は目標として、特に若者の観光客の増加、季節のイベントを増やすという2点を挙げています。

課題としては、コロナウイルスの流行などによる観光客の減少とともに、若者の割合の低下、季節ごとのイベント数の偏り、SNSでの活動が少ないという3点が挙げられています。

この目標と課題を踏まえて、先ほど幾つか例を挙げて説明した水戸市のSNS活動を活発にするというメリットとデメリットについて説明します。

まず、メリットとしては、SNSは多くの人が利用しているため、若者の目に留まりやすく、知名度が広がりやすい点、さらに、SNS上で行うため、季節に関係なく行える点、また、SNS上でイベントなどを行うことで、誰でも気軽に参加することができ、かつ、参加費用が少なく済む点、そして、SNS上でのイベントなら、実際に人が集まることのないため、コロナウイルス感染拡大の心配も少ない点などのメリットが挙げられます。

例えば、先ほどのLIVE配信を利用することで、家でも外で行っているイベントの様子を楽しむことができます。

次に、デメリットとしては、SNSは多くの人が利用しているけれども、高齢者の利用は若者に比べて少ないです。そのため、高齢者の目に留まりにくい点、そして、コンテンツとのコラボ、YouTubeやTikTokで企画を行うときに、そのときの流行りを知るリサーチ能力が必要な点、行ったコラボ企画が流行らないと、企画自体が意味をなさなくなってしまう点です。

しかし、私たちは、このデメリット以上に、このプロジェクトを実施したことでのメリットのほうが、水戸市を垢抜けさせる大きな役割を果たすと思います。

私たちは、この企画を茨城県庁の観光課の方に提案し、行ってもらうことで、他の県の方や水戸市外の方たちにもっと水戸市の魅力を知ってもらい、水戸市の観光業を通して、茨城県内でも、日本国内でも有名な都市になるきっかけになればいいなと思います。

また、若者や高齢者に関係なく楽しめるようなまちづくりを、観光の面から手伝えることができ、良かったです。

これで、私たちの「水戸市の垢抜けプロジェクト」の発表を終わりにします。

## ○司会

観光課グループの皆さん、ありがとうございました。席へお戻りください。

続いて、環境保全課グループの皆さん、準備をお願いします。

それでは、発表をお願いします。

## ○環境保全課グループ

これから環境保全課の発表を始めます。

まず、私たちのグループのテーマとしては「ポイントを貯めて、使えて、楽しい！」です。

最初に、内容について説明します。

私たちのグループでは、バスを使うアイデアについて考えました。バスに乗って降りるときに、カードを1枚もらうことができます。そして、そのカード30枚で500円として使

うことができます。バスに乗った距離は関係なく、乗った回数でカウントするため、1回乗車するごとに1枚カードを入手することができます。

また、カードに水戸市のマスコットキャラクターや特産品などのイラストを入れることで、カード集めがかなり楽しくなるのではないかと考えました。

私たちの班では、初め、カードではなく、スタンプを集めて、商品券として使うや、アプリを開発して、スタンプを貯めて使うという案を考えました。ですが、スタンプを集めるというのは朝の混雑した時間帯には適しておらず、また、アプリを使うというのは、老若男女に使いやすい企画にしたかったため、このようなカードを集める企画にしました。

次に、課題としては、ゼロカーボンシティの達成というものが挙げられます。そのためには二酸化炭素の排出量を削減する必要があると考えました。

現在、こちらのスライドにあるように、二酸化炭素を排出している主な原因としては、自家用車や電気を使用したときに発生する二酸化炭素、また、灯油やガスなどを燃やしたときに発生する二酸化炭素とされています。

そのうち、自家用車による排出量が一番多くなっています。そのため、自家用車の利用を削減することで、より多くの二酸化炭素の排出を削減することができるのではないかと考えました。

そのため、移動の際には、バスを利用することがいいと思いました。そのためにバスの利用者を増加させるアイデアを考案しました。

次に、アイデアがもたらすメリットについて説明します。

メリットは6個あります。

1つ目、バスの利用者が増加することです。カードを集めるためにバスの利用者が増加します。バスの利用者が増加することは、車の利用者減少につながります。

2つ目、バスに乗るのが楽しくなります。バスは乗るだけのもので、毎日使っている人などは楽しさも何も感じていないはずで、そこで、日常的な生活に楽しみを持ってほしいです。

3つ目、二酸化炭素の排出削減につながります。担当課の課題・目標で説明したとおり、自動車の利用を減らすことは、二酸化炭素の排出を減らすことにつながります。

4つ目、貯まったポイントを水戸市が運営するお店で使うことができます。使えるお店は私たちだけでは決めきれないことなので、水戸市が決定したお店で使うことができます。

5つ目、水戸市のお店が栄えることができます。ポイントを使うために水戸市のお店が使用されます。水戸市のお店が使用されることは、水戸市の経済が上がり、水戸市が栄えることにつながります。

6つ目、水戸市のお店を知ることができます。ほかの市町村から通っている高校生の多くは、自分たちが通っている学校の近くのお店ぐらしか知らないはずで、私も自宅から通っていますが、この学校の近辺と水戸駅のお店しか知りません。また、水戸市民でも、水戸市の全てのお店に行ったことがある人は少ないと思います。そこで、ポイントを貯め、それを使用するために水戸市を調べようとなります。そうすることで水戸市のいろいろなお店を知ることができ、さらに、そのお店の周辺を知ることができます。

このアイデアがもたらすデメリットについて説明します。

私たちが考えたデメリットは2つあります。

1つ目は、バスから降りるときに、出口付近が混んでしまうことです。バスの運行が滞ってしまうことが大きな課題です。

2つ目は、カードをつくるのに費用がかかることです。たくさんの方が利用すると思うので、膨大な費用と時間が必要になります。

そして、カードをつくるのに二酸化炭素が発生してしまうことです。水戸市が発表しているゼロカーボンシティ宣言は、二酸化炭素の排出削減が目標なので、達成が難しくなります。

ですが、これらのデメリットにうまく向き合えば、このアイディアは実現可能だと考えます。

最後に、この発表に込めた思いについてです。

私たちは自分自身が参加したくなるという視点を第一に考えました。しかし、それだけではなく、水戸市に貢献できるようにという視点も取り入れました。

最初のアイディアはごみの削減についてでしたが、いろいろとグループで話し合った結果、私たち高校生が最も参加したいと思ったこのアイディアに決まりました。このアイディアが選ばれたら積極的に参加して、水戸市をより良い市にしたいです。

また、バスの利用を楽しみ、日常的な生活の楽しみを増やしたいし、多くの人にも楽しみを増やしてほしいです。

このように、私たち高校生一人一人でもできることがあると分かりました。そのため、皆さんも一人一人が今後バスを多く使ってみたり、一人一人が考えて、家でできることをやってみたり、また、この企画に参加してみて、新しいお店を知って、水戸市の知らなかったお店を利用して、水戸市を盛り上げていってください。

これで発表を終わりにします。

ありがとうございました。

## ○司会

環境保全課グループの皆さん、ありがとうございました。席へお戻りください。

最後に、みとの魅力発信課グループの皆さん、準備をお願いします。

それでは、発表をお願いします。

## ○みとの魅力発信課グループ

これから「水戸だっpay～これが目に入らぬか～」の発表を始めたいと思います。

まず、私たちが担当するみとの魅力発信課が抱える課題は「高校生に届く情報発信」です。

10代、20代に情報が行き届いていない、男女でも情報伝達量の差が出ているなどのデータが出ていますが、私たちが調べたところ、水戸市はTwitterなりYouTubeなどのSNSを利用し、情報発信していますが、そこで発信されている情報は、若者向けのコンテンツとは呼びづらく、フォロワーの年齢層として、30代から40代の人の割合が多いことが分かりました。

そこで、私たちはこんなアイディアを考えました。

私たちのアイディアは、キャッシュレス決済アプリ「水戸だっpay」の開発です。

「だっpay。」

この「水戸だっpay」には、大きく分けて5つの機能があります。

まず、1つ目は、ニュース・広告です。まず、このアプリを入れてもらうことにより、その人自身の情報を入力、そして、入れてもらうことにより、情報を絞り込んで、届けたい情報を効率よく届けることができます。

また、広告を載せることによって、このアプリの運営費用に充てることができると考えています。

2つ目は、クーポン・割引の機能です。この機能を入れる大きな理由としては、私たち10代、20代の人により多く、このアプリを入れてもらうためです。

また、このアプリを入れてもらい、クーポンや割引があるお店に興味を持ってもらい、地域活性化につなげていきたいとも考えています。

3つ目は、QRコード決済です。QRコード決済は、キャッシュレスに貢献でき、SDGsにもなります。例えばATMの設置削減、人手不足の対策、質の良いサービスを提供するということが挙げられます。

4つ目の機能として、水戸市のホームページのリンクを設置することを考えています。現在、情報を調べるときに、ブラウザで水戸市と調べてホームページに飛び、そこから情報を得る機会が多いと思います。ですが、このアプリにこの機能を搭載することで、アプリを開く、そこからリンクを押すという2ステップだけでホームページに飛ぶことができるので、いいと思います。

5つ目の機能として、地図で近くの利用可能店舗の確認をすることを考えています。現在、日本で使われているQRコード決済アプリには大体この機能がつけられていて、これをつけることで、店舗を調べるときに、「ああ、ここにこんなお店があったんだ」などという発見をすることができるので、メリットにつながります。

現在、水戸駅でQRコード決済が可能な知名度の高い店舗として、マクドナルド、ミスタードーナツ、サーティワン、スターバックスなどがあります。これらは高校生に多く利用されていて、私たちがこれらの店舗を利用可能にしたいと思った理由は、このアプリを入れようか入れまいかと考えるときに、このような私たちが多く使っているものを取り入れることで、インストールしてくれる人が多くなると考えたからです。

この企画のメリットの1つ目は、若者がワクワクする割引によりインストールされ、そこからニュース機能により情報伝達ができるということです。

2つ目として、水戸市のホームページを開きたいときに、アプリを開けばワンクリックで移動できるということです。

この企画のデメリットとして、1つ目は、アプリの広め方です。これについては、YouTubeなどの広告で流し、伝達していくという方針です。

次に、ここが一番重要なのですが、大人の事情が関わってきます。特に金銭面でのやり取りが難しいです。このアイデアはアプリ制作ということになっているので、制作に莫大な費用がかかってしまうため、その点は計画的にやっていくことが重要だと考えられます。

この「水戸だっpay」というツールを通して、ターゲットに新鮮な情報を伝えられるよう



な未来を。

創ります！

以上で発表を終わりにします。

ありがとうございました。

### ○司会

みとの魅力発信課グループの皆さん，ありがとうございました。席へお戻りください。

以上をもちまして，全ての発表が終わりました。

続いて，質疑応答に入ります。

質問のある方は挙手をしてください。マイク係が席まで伺います。

発言に際しては，所属とお名前をお願いします。

### ○須藤新市民会館整備課長

皆さん，こんにちは。水戸市役所新市民会館整備課の課長の須藤と申します。発表ありがとうございました。

せっかくですので，新市民会館整備課の皆さんに質問させていただきます。

御提案いただいた内容はとても具体的で，すぐにでもできるのではないかといいクオリティーの発表だったと思います。

特に感心したのは，「思い出ごはんフェス」です。私どもではちょっと思いつかないような新鮮な企画だと思ひまして，とても感心いたしました。

このフェスをやるに当たって，小中学生の方とかにアンケートをとりますという話があったと思うのですが，参考までに，皆さんにとって水戸の思い出のごはんは一体どういうものかというのを教えていただきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

### ○新市民会館整備課グループ

新市民会館整備課，1年3組の\_\_\_\_\_です。

思い出のごはんですけれども，中学生の頃に食べたココア揚げパンが一番思い出に残るごはんです。以上です。

### ○新市民会館整備課グループ

1年3組の\_\_\_\_\_です。

僕は，小中学生の頃の給食に出てきたカレーライスが好きです。

### ○新市民会館整備課グループ

新市民会館整備課，1年3組，\_\_\_\_\_です。

私の思い出の給食は，揚げパンとソフト麺が出たことです。

### ○新市民会館整備課グループ

新市民会館整備課，1年3組の\_\_\_\_\_です。

私の思い出は，橋本さんと一緒なのですけれども，ソフト麺が出たことです。

### ○須藤新市民会館整備課長

貴重な御意見ありがとうございました。いつの間にか思い出給食に変わってしまったのがちょっと面白かったのですけれども。

皆さんの発表で，こういう点をやってくださいという言い方ではなくて，一緒にやりましょうという感じで提案していただいたのはとても良かったと思ひます。

できることなら、皆さんが2年生のうちに実現していきたいなと思いますので、引き続き、新市民会館に注目してください。

どうもありがとうございました。

#### ○坪井環境保全課長

皆さん、こんにちは。環境保全課課長の坪井と申します。

皆さん、これまでの取りまとめ、そして発表、お疲れさまでした。

環境保全課グループの皆さんに御質問をさせていただきます。

二酸化炭素の排出を減らすということは大事なだけでも、それによって我慢して地域が冷えてしまう、活性化しないというのが一番まずいと考えています。二酸化炭素の排出を削減しながらも地域を活性化するという視点では、皆さんがおっしゃったような、水戸市のお店が栄えるという視点はすごく大事なことで、素晴らしい発表だったと思います。

そして、「水戸だっpay」のお話がありまして、環境保全課グループの皆さんは、カードを集めるというお話だったかと思いますが、「水戸だっpay」と連携してやっていったら面白いなと今感じているところです。

最後に、質問なのですが、水戸市内のお店でポイントを使える、「水戸だっpay」というアプリを使えるといったときに、どういったお店で使えたらいいかなということで、皆さん一人一人、何か思いつくことがあればお願いしたいと思います。

#### ○環境保全課グループ

環境保全課、1年1組の\_\_\_\_\_です。

僕がふっと思い浮かぶ店舗は、茨城高校付近にある「焼き鳥西濃」というお店がベストだと。個人経営のお店なのですけれども、そういう個人経営のお店で使えたらいいかなと思っています。

#### ○環境保全課グループ

1年1組の\_\_\_\_\_です。

4月から通って、ここら辺のお店とかは全然知らないのですけれども、そういう機能ができたら、もっといろいろ調べて、知りたいと思います。

#### ○環境保全課グループ

環境保全課、1年1組の\_\_\_\_\_です。

私も水戸市には住んでいないので、よく分からないのですけれども、この企画ができたら、その機会で見ることができたらいいかなと思っています。

#### ○環境保全課グループ

環境保全課、1年1組、\_\_\_\_\_です。

泉町三丁目にあるロボッツの、丸いドームの透明になっているお店があるのですけれども、そこで使えるといいと思います。

#### ○坪井環境保全課長

突然の質問に答えていただき、ありがとうございました。環境活動ということで、今日、バスに乗るという提案でしたけれども、バスに乗る以外の、例えば自転車に乗るとか、電気の消費を減らすとか、二酸化炭素を減らすための活動も皆さんにさせていただきながら、そしてポイントなどに変換しながら、皆さんの行動を推し進めるようなアプリの開発もこ

れからできればなと思いますので、ぜひそのときには、魅力的なそういったお店などでも使えるように、皆さんのアイデアをいただきながらやっていきたいと思います。

ありがとうございました。

## ○司会

最後の質問とします。

## ○宮崎みとの魅力発信課イメージアップ係長

皆さん、こんにちは。みとの魅力発信課の宮崎と申します。

せっかくなので、みとの魅力発信課グループの皆さんに御質問させていただきたいと思っています。

「水戸だっpay」ということで、ありがとうございました。

アプリの開発ということ御提案いただいたと思うのですが、全国の自治体、いろいろなところで、アプリはこれまでもいろいろ開発されてきたのですが、ダウンロード数が伸び悩んでいるものが多いです。ダウンロードしてもらっても、継続して使ってもらうとか、スマホから消さないで使ってもらおうというのがどうしても課題になっています。そういった点で、皆さんの御提案は、クーポンを使ったダウンロード、ユーザーを伸ばすという着眼で、すごく良かったなと思います。

一方で、ニュース機能があったと思うのですが、利用者によって、いろいろな情報発信ができるということで御提案があったと思います。私たち行政が発信している情報や魅力と、皆さんが普段から感じている魅力や欲しい情報などは、どうしてもギャップが生まれてしまっていると思うのです。

そこで、率直にお聞きしたいのですが、高校生の皆さんにとって、普段欲しい情報というのですか、どういう情報だったら欲しいかなというのを、魅力とかでも全然構いませんので、御一人ずつお願いいたします。

## ○みとの魅力発信課グループ

みとの魅力発信課、1年1組、\_\_\_\_\_です。

率直にだと、水戸市内で行われているお祭りなどのイベント情報がすごく欲しいかなと思います。

## ○みとの魅力発信課グループ

同じく、みとの魅力発信課、1年、\_\_\_\_です。

私としては、食べることが結構好きなので、隠れた名店的な飲食店を発信してもらえれば一番いいと思います。

## ○みとの魅力発信課グループ

1年1組の\_\_\_\_です。

私も\_\_\_\_さんと一緒に、食べ物が好きなので、友達と一緒に回れるところとかを見つけたいなと思っているので、そういうお店の情報が欲しいなと思います。

## ○みとの魅力発信課グループ

1年1組の\_\_\_\_\_です。

私は水戸に住んでいるので、水戸の美味しいお店などは結構知っているほうなのですけ

れども、例えば、ハミングロードという商店街にある伊勢屋さんのお餅がおいしいです。小さい頃、のどに詰まらせたこともあるので、ぜひ皆さん、食べてみてください。

### ○宮崎みとの魅力発信課イメージアップ係長

ありがとうございました。先ほど話したように、行政が押し出したい魅力と皆さんが感じている魅力はどうしてもギャップがあるので、そこは頑張っていきたいと思います。

今、SNSの時代で、個人で積極的に情報を発信する時代なので、これからも流行を意識しながら、皆さんと協力したり、コラボしたりしながらやっていきたいなと思います。

イベントといったお話が今あったのですけれども、前にお話をしたかと思うのですが、実は水戸市で「イベント情報集約サイト」というものを立ち上げました。いろいろなイベントが載っているようなサイトになっていますので、ぜひ御活用をお願いいたします。

どうもありがとうございました。

### ○司会

御質問していただいた方、ありがとうございました。

それでは、水戸市長 高橋靖様より講評をいただきます。高橋様、よろしく申し上げます。

### ○高橋市長

あらためまして、皆さん、こんにちは。水戸市長の高橋です。

今日は、すばらしいプレゼンを聞かせていただいて、ありがとうございます。大変参考になりました。

今日、プレゼンをやる過程において、皆さん、いろいろなことを学んだり、いろいろなことを経験したり、人から聞いたり見たり、いろいろな経験をしたと思うので、それが大事なのです。

市役所の人たちともいろいろと話をしたでしょうか。今度、できれば市役所に直接訪ねてきてください。それぞれの課にこの人たちがいますから、仲良くなったほうがいいですよ。そのうち皆さんが大学を卒業して、市役所に入りたいたいなと思ったとき、いろいろなアドバイスをもらえるかもしれないので、ぜひ仲良くなってください。

このいろいろ研究した成果を非常に大切にいただければなと思っています。

少し時間があるから、それぞれにお話をさせていただきたいのですけれども、まずは、皆さんのプレゼンはそれぞれ非常に的を射ています。非常に感動しました。ありがとうございました。

水戸城はないのです。ほかの自治体に行くと何々城というのがあって、天守閣というのがありますが、水戸市はないのですね。やっとな手門という門をつくって、角櫓をつくった。どちらもお城の附属施設ですよ。メインのお城ではなくて、お城の附属施設をやっとな手門というものが水戸市なのです。そして白壁塀をつくった。これの話をすると長くなるので、なぜかということは後で研究してください。なぜ天守閣がないのか、あの門はなぜすばらしく立派なものなのか、少し調べていただければと思います。

なぜこれを言っているかという、ハードはあれ以上はできないのですね。本当に水戸城を復元するとなると、附属小学校と水戸三高に移動してもらわなければならないので、あそこまでしかつけれないのですね。

では、あそこまでつくったらどうするかといったら、ハードができた以上はソフト事業なのです。まさに皆さんが言ったお祭りなのです。いろいろなイベントを仕掛けて、あの周辺に人を集める。このイベントの開催は、先ほど言った、なぜ水戸城はないのだとか、なぜ水戸城はすばらしいのだとか、あるいは、その手前の弘道館で何が起こっていたのかといったことを知ってもらうきっかけにもなるのかなと思うのです。そこから水戸に興味を持ってもらい、次は、同じく斉昭公がつくった弘道館も偕楽園も見にいこうかといった展開が生まれてくると思うのです。ハードができた以上はソフト事業ですね。イベント等をどのように仕掛けて、それをきっかけに、もっともっと水戸の歴史を知ってもらえるかというところが大事なので、このイベントをやるというのは非常に的を射た話なのです。

令和4年に、「水戸の夜市」とか、水戸城跡でお祭りを開催したのですが、まだ有名になっていないので、もっともっとイベントを開催していきたいなと思っています。

それから、中心市街地は、今からちょうど40年前、私たちが皆さんの年の頃はものすごくにぎやかだったのです。私の高校時代には、大工町から水戸駅までいろいろなお店があって、帰りにずっと歩くのですけれども、いろいろな食べ物屋があったり、喫茶店があったりしました。楽しかったですね。今、それらが少なくなってしまうと、私たちはちょっと寂しいなと思っています。どうしたら若い人たちにまちのなかに来ていただけるか。歩いていただけるか、遊んでいただけるか、もっともっと研究していかなくてはならないなと思っています。

今度、市民会館ができて、皆さんが自由に出入りして学べる場所、本を1冊持ってきて、あるいは参考書を持ってきて、勉強道具を持ってきて、そこで勉強できるようなスペースもふんだんにつくってあります。令和5年7月2日以降、新しい市民会館ができれば、そこでみんなでおしゃべりをしてもいいし、勉強をしてもいいし、ぜひいろいろな利用の仕方をしていただいて、皆さんの高校生文化、私たちが想像つかないことが生まれれば有難いななどということも思っています。

皆さんの思い出ごはんは給食なのです。ソフト麺をつくっている会社が潰れてしまっていて、今、なかなかソフト麺を出せなくて申し訳ないのだけれども、なるべく出せるようにします。

食のイベントは人を集められるのです。やはり、人を集められるのは「ミュージックアンドテイスト」なのです。それにフィクションが加わればいい。まさに的を射ている。食べ物で人を集めるというのはありなのです。音楽と食べ物は本当に人が一番集まりますから。

「やぐら広場」という室内イベント場がありますから、そこでこの「思い出ごはんフェス」を考えさせていただいて、いろいろなイベントを通して人が集まれる中心市街地にしていきたいなと思っています。

SNSの関係はどんどんやっていかなければならないのです。私もブログとTwitterとFacebookとInstagramを毎日毎日やっているのです。私のフォロワーは、皆さんのような年齢の方はいらっしやなくて、もっともっと上の人なのですが、たまにふざけた投稿をするのです。いつもは真面目にやっています。仕事のことですから、皆さんが見ても全然面白くない。たまに自分の個人的なこともふっと書くのです。そうすると、Facebookだった

ら、「いいね」が1,000件ぐらいになってしまう。ふだんは300件とか400件しかないのだけれども、「いいね」が1,000件ぐらいになってしまう。InstagramもTwitterもほとんど「いいね」がついてしまうのですね。たまにそういうことをやっている。それでちょっと興味を引くようなことをやるのですが、これは戦略なのですね。あまり真面目なことばかりをやっていると、フォロワーは増えないのです。ですが、ふざけたことばかりやっていると、この市長は何だと言われるので、バランスをとってやっているのです。

SNSの活用は、皆さん、一番何を使いますか。やはりInstagramですか。Instagramですよね。Facebookだと自分の名前を出さなくてはならないし、主な利用がもうちょっと上の世代になってしまうのです。あと、Twitterは匿名性があるって、いろいろ問題もありますが、若い人たちは何を使っているのか、若い人たちに情報を届けるためにはどういう媒体がいいかということも私たちも良く研究しながら、利活用をもっと図っていききたいなと思います。みとの魅力発信課長、今、皆さんの言われたこと、良く分かったみたいです。Instagramで面白いことをやっていきましょう。どんどん発信しましょう。

それから、バス。私も年に1度だけバスで通っているのです。普段は車なのですが、温室効果ガス削減とか、環境問題を考えてやっているのです。車の生活が便利になりましたから、車ばかりになってしまうのですが、今、交通政策課のほうで、公共交通の利用促進、環境問題への取組、この2つをテーマにして、どんどんバスを使ってください、あるいは自転車を使ってくださいということ呼びかけています。

自転車に乗る方は分かると思うのだけれども、今、道路の端に青くペイントしてあるでしょう。矢羽根と言って、矢の先のようなものをずっと描いている。できるだけ皆さんが自転車で移動しやすい環境を整えようということで、ああいう取組をやっているのです。

それと、令和5年4月からまちなかでシェアサイクルをやるのです。利用料金がかかるのですが、30台導入します。市民会館、大工町、常磐大高校周辺、水戸城周辺とか5か所に、スマホでピッとするだけで、気軽に自転車に乗って、そこに置いていける、シェアサイクル事業が水戸で始まるのです。ぜひ学生さんに自転車で移動していただきたい。バスも良いですが、自転車も利用していただきたい。そんな習慣を身につけて、まち歩きを楽しみながら、環境にも良いということも皆さんに頭に入れてもらおうかなと思っています。

最近、某バス会社でバスの位置情報が始まったでしょう。2年ぐらい前に始まったのですが、あれは便利ですよ。あと何分で来るとか、何分遅れているとか、非常に便利でしょう。あのように、バスも便利になればいいのですよね。何分遅れているのだろうか、いつ来るのだろうか、雨とか寒いときに待っているとつらいではないですか。ああいうとき、いろいろな便利なツールができると、バスも利用しやすいかなと思います。

あとはキャッシュレスですよ。バスも、もう皆さん、定期でピッとやっているでしょう。キャッシュレス化は進んでいるのですが、もっともっと便利になれば良いのかなと思っています。それはバス会社に話して、水戸市も補助金という形で応援して、そういうキャッシュレスの仕組みをつくってもらって、もっともっとバスを利用するのが便利になるようにしていきたいなと思っています。

それから、アプリの開発。お父さん、お母さんが銀行に勤めていたら申し訳ございませんが、最近、銀行が厳しくて、振込のときの手数料が取られるのです。水戸市は税金を払

ってもらったり、市営アパートの家賃を払ってもらったり、下水道料金を払ってもらったり、水道料金を払ってもらったり、市民の皆さんからいろいろなお金を払ってもらうのですね。そのときに納付書というのがあるのですが、それを銀行に持って行って、銀行の窓口で払ってもらうのですが、その手数料が高い。手数料を高く取られるから、なるべく銀行の引き落としで払ってもらったほうがいい。銀行引き落としにしてもらえるよう呼びかけているのです。そうしないと手数料が結構大変なのです。

これからキャッシュレスをどんどん進めていくのですが、「水戸だっpay」を取り入れるかどうかというのは先ほどの課題で、恐らく1,000万円単位、あるいは2,000万円単位の開発費がかかってしまうのでなかなか難しいのですが、いろいろな収納、水戸市が市民からお支払いいただくものについてはキャッシュレス化を図っていきたいと思います。このことが効率化、そして、皆さんからいただく税金もあまり使わないで済むということなので、「水戸だっpay」というアプリをつくるのはちょっと難しいかもしれませんが、キャッシュレス化はどんどん進めていきたいと思っています。

ただ、「水戸だっpay」という名前は使わせてもらおうかなと思っています。良い名前だなと思うので、これから水戸で何かをするときには「水戸だっpay」と。先ほどの「MITORI図」と「水戸だっpay」という言葉を使わせてもらおうかなと思っています。そのときには著作権費が欲しいとか言わないでください。勝手に使っているかもしれませんので、よろしく願いいたします。皆さん、こういう名前を付けるのはさすがですね。まず、そこは勉強になりました。ありがとうございました。

そういうことで、皆さんの今日の御指摘や御提案は極めて的を射ています。本当によく勉強されて、また、金銭感覚を身につけて、今の問題、課題を洗い出して、ちゃんとメリット、デメリット、良いことばかりではなくて、問題がありますよということまで提言されたのはすばらしいです。こういうことは効果があるけれども、こういう問題がありますよとか、そこまできちんと研究されていることはすばらしいと思います。そういうところはバランス感覚を持っているということなので、皆さんは非常によく研究されたのかなと思います。

今、国語、数学、理科、社会がいろいろ分かれています。代数や幾何、地理や歴史とかに分かれているのかもしれないのですが、基本的に、国語、数学、理科、社会です。国語の感想文とかは答えがいっぱいある。人がどのように感じ取るかというのはいろいろではないですか。だから、感想文の採点は誰がやっているのかなといつも思うのですが、多分、文章の構成、起承転結がちゃんとされているかというのが点数になっているのでしょうか。どう捉えるかというのは得点ではない。採点する人に、どう感じたかなどと言われる筋合いはないではないですか。恐らく文章の構成が成績になってくるのでしょうか、ただ、答えはいろいろありますね。でも、答えは大体一つではないですか。1足す1は2ですから、答えはやはり一つなのだと思うのですね。でも、社会に出ると、答えが一つでないことがいっぱいあるのです。私たち行政の仕事もそうなのです。

私はいろいろなところで話をするのですが、例えば『ロバと老夫婦』の話があります。知っている人もいると思うのですが、ロバを連れた老夫婦が峠の山道を歩いていたら、すれ違う人に「何でロバに乗らないのか。せっかくロバを連れているのに、もったいないじ

やないか」と言われたのです。その次の日に、今度は、おじいさんがロバに乗ったのです。そうしたら今度は「おじいさんだけ乗ってずるいじゃないか。おじいさんが威張っているぞ」と言われたのです。その次の日は、今度はおばあさんを乗せていったのです。すれ違う人に今度は「何だ、おばあさんが乗っていて、おじいさん、だらしがないな。おばあさんに頭が上がらないのか」と言われたのです。次の日に2人でロバに乗っていたら、すれ違う人に「ロバが重くてかわいそうじゃないか」と言われたのです。そのほかにも考えられるでしょうか。ロバに乗らない。おじいさんだけが乗っている。おばあさんだけが乗っている。2人とも乗っている。あとはロバを担ぐか。

つまり、何が言いたいかという、何をやっても賛成と反対が起こるということです。社会に出たら、こういうことがいっぱい起こるのです。

今回、コロナで、私はいろいろな判断を迫られました。例えば、小学校と中学校は市の管轄なので、学校を休校にするとか、行かせるとか、運動会をやるとか、やらないとか、修学旅行に行かせるとか、行かせないとか、私たちの判断だったのです。どちらをとっても賛成、反対と言われるのです。

例えば、皆さんの大切な思い出だから、運動会をやろうとか、修学旅行に行こうという、それに反対する人は「うつつたらどうするんだ。誰が責任をとるんだ。コロナになったらおまえのせいだぞ」と言うのです。 「では、行きません」と言う、「子どもたちの思い出がなくなっちゃって、どうしてくれるんだ。何かほかのことを考えろ」とか、どちらにしても賛成、反対意見があるのですよ。それは世の中でいっぱい出てくる。でも、1個しか選べないのです。2個も3個も選べないのですよ。

皆さんが社会に出て、この仕事をやろうといったときに、そのやり方をどう選ぶのか。富士山に登るときに、静岡県側から登るか、山梨県側から登るか、どちらか1個しか選べないのですよ。でも、どちらも正しい場合があるではないですか。それから、この人にとって、こっちが良いというのがあるではないですか。静岡県側から登るのもきれいだし、山梨県側から登るのもきれいかもしれないし。どっちが悪くて、どっちが良いというのはありません。でも、どちらか一つ方法を選んで富士山に登るしかないのです。どうやって決めますか。その決める方法を決めてください。いろいろな方法がありますね。自分一人で勝手に決めてしまう。あるいは、民主主義的にみんなで話し合っ、みんなでこれが良いだろうということで決める。

その決める過程においては、何を根拠にしますか。いろいろ勉強されてきたから、いろいろなことを積み上げて、エビデンスを見つける。エビデンスというのは証拠とか根拠ですね。それを見つけて、それをどんどん積み重ねていく。それでどこかで客観性、あっちよりこっちのほうが良いだろうという答えを見出してくるわけですね。こういうのを「合理的選択」と言うのです。どっちも正しいのだけれども、こっちよりこっちのほうがましだ、これをやるよりやらないほうが良い、あるいは、やらないよりやったほうが良いという合理的選択を見出すためには何を根拠とするかなのです。みんなで話し合っ、いろいろなことを調べて、証拠品を並べて、それで最終判断をする。もしかすると、最後は直感かもしれない。いろいろな決め方があると思います。これは、別に皆さんが社会に出なくても、生徒会活動や部活動などでもあるのではないですか。答えがないもの、答えがい



っぱいあるものについて、どのように決めていくかということです。社会に出たとき、これは非常に大切になってきますので、ぜひ皆様方には、いろいろ視野を広げて、いろいろなことを経験して、難局に直面したときにどういう判断ができるか、まず、自分を磨き上げていただきたいなと思います。

今年ほうさぎ年です。いろいろな会合に行くと、最後に偉い人がしゃべるのですね。新年会へ行くと、「今年ほうさぎ年。ウサギはピョンピョン跳ねます。ウサギのように飛躍の年にいたしましょう。乾杯！」とやるのですね。

これは非常にポジティブな話なのですが、皆さん、ウサギとカメの話を知っていますか。『イソップ物語』のウサギとカメの話。最後はウサギが負けてしまう。カメが勝って、ウサギが負ける。これはいろいろな教訓がありますよね。侮るなどか、油断大敵とか、一步一步確実に前進するとか。ですが、私はそうではないと思っています。何だと思えますか。私は、何を見ていたかなのだと思うのですね。ウサギとカメは何を見ていたか。カメはゴールを見ていたのですね。ウサギはカメを見ていた。カメを見ていたから負けたのです。カメはゴールを見ていたから勝ったのです。

皆さん、夢と希望を持ったら、夢と希望に向かって、そこを見つめてください。隣の人は何をやってもいいです。受験勉強のときに、誰々さん、誰々君は何時間勉強したから、自分は何時間やろうかと。そうではなくて、自分が興味関心を持ったら、夢と希望を持ったら、そのゴールを見てください。脇は見なくていいです。少し確認するくらいならいいかもしれないですが、カメと同じで、ゴールを見てください。ウサギみたいに、カメは見なくていいです。そうすると負けます。ぜひ、目先のことでなくて、しっかり自分で希望を抱いて、いろいろな苦勞をして、いろいろなことを乗り越えて、そういう経験を通して、皆さんがこれから大きく世界へ羽ばたくことを楽しみにしております。

今日は本当にありがとうございました。皆さんの将来を楽しみにしています。ありがとうございました。

#### ○司会

高橋様、ありがとうございました。

それでは、閉会式に移ります。

#### ○高橋大輔先生

本日は、お疲れ様でした。簡単な閉会式の形にしたいと思います。

#### ○司会

それでは、本日お越しいただいた水戸市役所の皆様がお帰りになります。生徒の皆さん、拍手をお願いします。



令和4年度

## 行政懇談会記録集

常磐大学高等学校 第1学年特進選抜コース

令和5年7月発行

編集・発行

水戸市 市長公室みとの魅力発信課 市民相談室

水戸市中央 1-4-1

電話 029 (224) 1111